

第3種郵便物認可

# 「がんと心」学ぶ講座

## 告知やケア人材育成

がんと心の関係を考える「精神腫瘍学」を学ぶ講座が今春、全国で初めて、埼玉医科大学(埼玉県毛呂山町)と名古屋市立天太学院(名古屋市)に誕生する。がんが患者や家族の心に与える影響や、心の持ち方と生存期間との関係などを研究する。また告知の仕方や、がんとわかってどうつ状態になった患者や家族への対応などを学び、臨床現場にいかしていく。

精神腫瘍学は「サイコオンコロジー」の和訳で、サイコロジー(心理学)とオンコロジー(腫瘍学)などからなる造語。日本サイコオンコロジー学会によると、「精神腫瘍医」として専門治療を行っている医師は、国内で数十人程度しかないという。埼玉医科大学では大西秀樹教授(精神腫瘍科)らが担当し、医学生を対象に、精神腫瘍学の基礎や、が

### 埼玉医大など今春開設

ん患者のうつ病や意識障害の仕方、痛みの治療の重要性などを教える。名古屋市立天太学院は連携大学院の形で、国立がんセンター東病院臨床開発センター精神腫瘍学開発部の内富昭介部長が客員教授を務める。医師を対象に、基本的に4年間、名市大と国立がんセンターで、新しいケア法の開発などを研究する。がんになった場合、2

4割がうつ状態になると報告されており、その場合、治療に積極的にならないなどの影響が出る。02年から診療報酬で、精神科医らがいる緩和ケアチームに加算が認められるようになった。日本サイコオンコロジー学会も昨年、精神科医を対象に講習会を開催しているが、人材育成が追いつかないのが現状だ。

同学会の代表世話人を務める内富さんは「患者は、抗がん剤の副作用より心の痛みの方が強いと訴える。最期までその人らしく生きるため、心のケアを提供する人材を増やすことが急務だ」と話している。(岡崎明子)